

ウイルス性肝炎について

ウイルス性肝炎とはウイルスの感染により肝臓の炎症がおきる疾患です。種類としては A 型～E 型肝炎がありますが、その中でも B 型肝炎は急性肝炎・慢性肝炎を C 型肝炎は慢性肝炎を引き起こし、さらに進行して肝臓の線維化が進むと、肝硬変になります。肝硬変になると肝細胞癌を発症したり、肝不全になり生命を保てなくなるため、早期発見・早期治療が重要です。

大事なこと

- ✓ 早期発見が重要。健診等で肝機能異常を指摘された場合はウイルス性肝炎の検査も行う。
- ✓ B 型急性肝炎の場合は自然軽快する。急性肝不全への進行を疑う場合は、早期に治療を開始する。
- ✓ B 型、C 型慢性肝炎の場合は抗ウイルス薬(内服薬)を用いて肝炎ウイルスを身体から排除する。
- ✓ 医療の進歩(抗ウイルス薬の進化)によりウイルス性肝炎は治癒する時代になってきている。
- ✓ 早期治療により、慢性肝炎による肝臓の線維化の進行を食い止める。肝硬変にしない。
- ✓ 肝硬変に進行している場合は、進行を防ぐ治療と同時に、併存する症状の改善を目指す治療を行う。

- ・ A 型は一過性の急性肝炎。糞便中に排泄、衛生環境により感染が増加。感染者は 300～900 人/年。
- ・ B 型は出生時の母子感染(近年はまれ)か水平感染(主に性行為感染)。感染者は約 100 万人(2022 年)。
- ・ C 型は母子感染(約 10%)か水平感染(輸血、入れ墨、針刺し事故など)。感染者は 90～130 万人(2022 年)。
- ・ D 型および E 型肝炎はまれ。
- ・ B 型肝炎は、急性肝炎から急性肝不全へ進行した場合の早期の治療開始、本人の免疫力低下時のウイルス再活性化の予防、および慢性肝炎に対する早期の肝炎ウイルスの排除、が必要となる。
- ・ C 型肝炎は、慢性肝炎に対する早期の肝炎ウイルス排除、が必要となる。

・ウイルス性肝炎の原因

- ① 肝炎ウイルス感染 (A 型、B 型、C 型、D 型、E 型)

・肝機能障害を認めた場合に必要な検査

- ① 原因の検索 (**ウイルス性**、アルコール性、非アルコール性脂肪肝、自己免疫、薬剤 等)
- ② 肝機能評価：採血検査、採血結果を用いた肝線維化スコアリング
- ③ 肝線維化の評価、肝細胞癌の有無：腹部超音波(肝臓の硬さ：エラストグラフィー)、腹部 CT、肝生検
肝硬変を伴う場合
- ④ 上部・下部消化管内視鏡検査(出血をきたす静脈瘤の有無、状況の評価)
- ⑤ その他、肝硬変に伴う合併症の評価

・ウイルス性肝炎 の治療

- ① 抗ウイルス薬(内服薬)
※B 型、C 型肝炎に対して、体内のウイルスの状況(採血検査で評価)を調べて必要時に行います。
- ② 肝硬変に至っている場合は併存する疾患、症状の治療。
- ③ 発癌対策：早期発見(スクリーニング)、早期治療。